

令和4年3月31日、山梨県身延町の特産品「あけぼの大豆」が、県内の農林水産物や食品で初めて国の地理的表示（GI）保護制度（※）に登録された。町では以前より活性化事業の1つとしてあけぼの大豆の振興に力を入れており、今回GIに登録されたことで、地域の活性化がより一層期待される。そこで、本レポートでは「あけぼの大豆」をはじめとした町における地域活性化の取組を紹介する。

※地理的表示（GI）保護制度

産品をその生産地や品質の基準等とともに登録し、保護する制度。専用のマークをつけた販売が可能となり、産品のブランド力向上や類似品の流出を防げる。山梨県内では他にワインや日本酒がGIに登録されている。

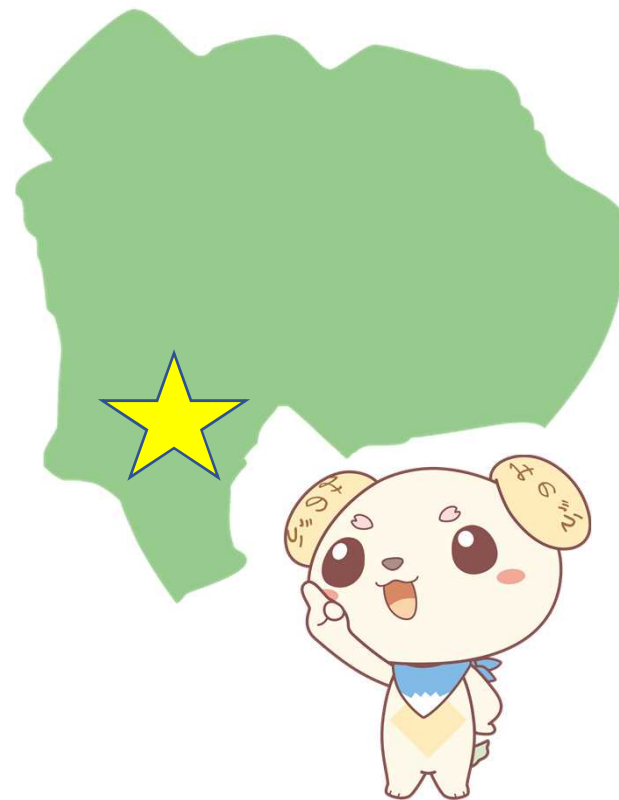
《身延町について》

- 平成16年9月に3町（下部町、中富町、旧身延町）が合併して誕生。
- 山梨県の南部に位置し、中央を北から南に日本三大急流の1つである富士川が流れる。
- 特産品はあけぼの大豆の他、ゆば、みのぶまんじゅう、竹炭、南天、西嶋和紙、下部味噌、しいたけがある。
- 令和2年国勢調査における人口は10,663人であり、平成27年から2,006人減少。うち65歳以上が5,065人であり、高齢化率は47.5%。国立社会保障・人口問題研究所による2018年の推計では、2060年の人口は2,765人とされており、今後も人口の減少が続くと見込まれている。

➡ 人口減少と高齢化の克服が課題

➡ 地域産業の活性化や、観光産業の拡大により、新たな雇用を生み出し、移住・定住を促進

身延町特産「あけぼの大豆」でまちおこし事業、しだれ桜の里づくり事業、町の歌制作事業、「ゆるキャン△」による活性化の取組、下部温泉の魅力アップに向けた取組を紹介



身延町公式マスコットキャラクター
みのワン

身延町特産「あけぼの大豆」でまちおこし事業

【「あけぼの大豆」について】

「あけぼの大豆」は身延町曙地区発祥であり、通常の大豆よりも粒が大きく、甘みが強いことが特徴。これらの特徴には発祥の地である曙地区特有の風土が関係しており、「あけぼの大豆」を曙地区以外で栽培すると、その特徴が年々薄れていく。そこで、誰が栽培しても良質な大豆が生産できるよう、「あけぼの大豆」は「身延町曙地区で採れた1年目の種子を使って、身延町内で栽培されたもの」と定義されている。

【事業の全体図】

あけぼの大豆
(えだまめ・大豆)



優良な種子の確保・栽培技術の向上・担い手の確保
☞ 「あけぼの大豆」の生産量向上

ブランド化の確立・あけぼの大豆拠点施設の整備及び運用
☞ 「あけぼの大豆」の販売促進・加工品開発

あけぼの大豆を中心とした街の紹介・産地フェアの開催
☞ 「あけぼの大豆」＝「身延町」のPR

「あけぼの大豆」の6次産業化（※）

地域に根ざした雇用の創出

※6次産業化

1次産業としての農林漁業、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組

【事業の具体的取組】

① 身延町あけぼの大豆振興協議会の設立

平成28年3月、生産者、在来種曙大豆保存会、JAふじかわ（現JA山梨みらい）、身延町商工会、身延町、山梨県とで「身延町あけぼの大豆振興協議会」を設立。

優良な種子を確保し、あけぼの大豆の安定生産、品質向上及び需要拡大の推進と併せて、ブランド力の強化に向け、試験ほ場の整備や環境調査等によるデータ収集、勉強会の開催等に取り組んでいる。

② あけぼの大豆拠点施設の整備

平成29年、学校の統合により空き校舎となった小学校を6次産業化事業の拠点施設として整備し、「大豆の生産」「農機具等の整備・貸出」「枝豆の共選」「はねだし品の加工・商品開発・製造販売」を一体的に実施。

令和4年度から指定管理者制度により業務を民間事業者へ委託。民間事業者のアイデアとノウハウを活用し、販路の拡大等、さらなる発展を目指す。

③ 地域おこし協力隊の採用

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域への協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。

町はあけぼの大豆担当の地域おこし協力隊を採用しており、隊員はあけぼの大豆の栽培や加工品の開発、あけぼの大豆振興協議会の事業補助等を行っている。

④ あけぼの大豆産地フェアの開催

毎年10月の枝豆収穫時期に開催されるイベントで、枝豆の収穫体験や直販が行われる。毎年3,000人ほどが訪れ、リピーターも多い。

令和2年度及び3年度においては、新型コロナウイルスの影響により収穫体験は行わず、各会場にて事前予約制による枝葉付き枝豆の直売会を実施。

【補助事業の活用】

○ 中山間所得向上支援対策事業（農林水産省）

☞あけぼの大豆拠点施設に選別等を行う作業場・農機具の倉庫・荷解き場を整備

○ やまなし農業・農村総合支援事業費補助金（山梨県）

☞あけぼの大豆拠点施設の整備

○ 中山間地域農業ルネッサンス事業（農林水産省）

☞農家向け栽培テキストや、あけぼの大豆ガイドブック等を作成

↓2021年あけぼの大豆産地フェアの広告



↓あけぼの大豆拠点施設



出所：身延町HP、あけぼの大豆ブランドサイト、身延町作成資料

↓「極上枝豆ポタージュの素」



↓「Minoぶらん」

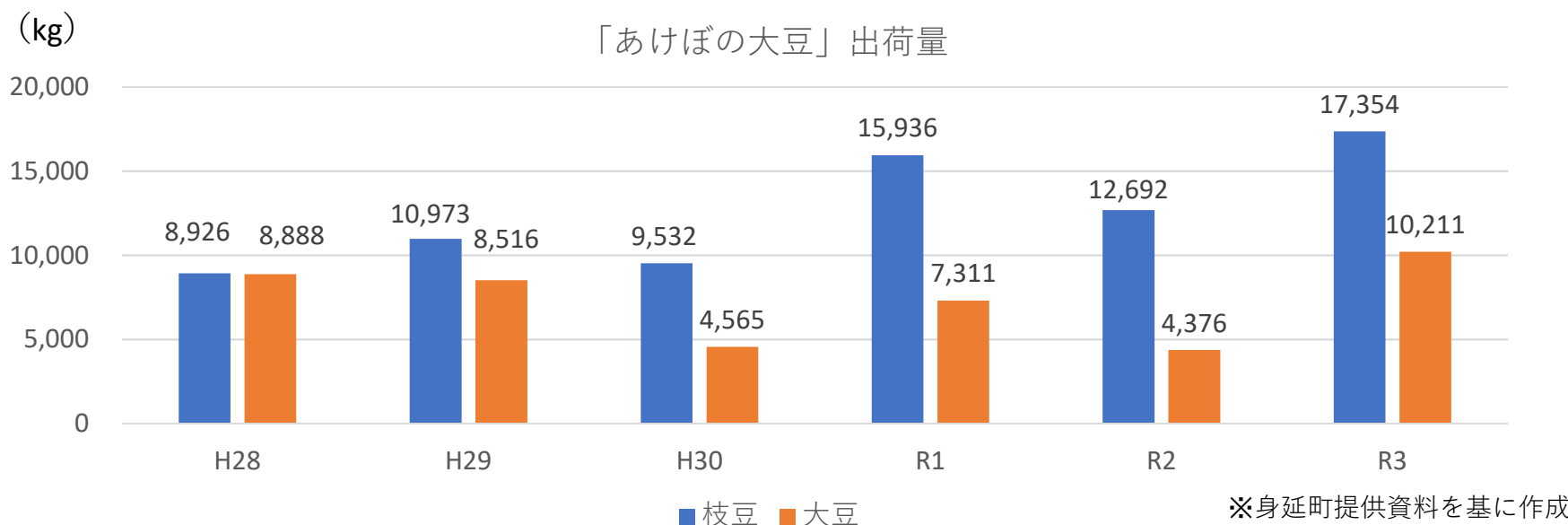


↑「極上枝豆ディップ（ソルティー）」

↑「極上枝豆ジャンボシュウマイ」

【事業の効果】

- 令和元年11月14日に行われた皇位継承の重要祭祀「大嘗祭」で山梨県の特産に選ばれるなど、知名度が向上。
- あけぼの大豆の栽培を目的とした移住者の増加。
- あけぼの大豆拠点施設の売り上げが増加。
- 農家からJA山梨みらいへの出荷量が枝豆・大豆ともに増加。



【「あけぼの大豆」のこれから】

- 目標の一つであった「地理的表示 (GI) 保護制度」への登録を達成。
- 今後は「あけぼの大豆」の品質向上（より大きく、より甘みの強い）を目指した栽培研究を進めるとともに、消費者のニーズの把握に努め、消費者によろこばれる加工品の開発にも力を入れる。
- 生産者、あけぼの大豆振興協議会、町が一丸となって「あけぼの大豆」を継承していく。

しだれ桜の里づくり事業

- 平成27年度に身延高校の生徒が「町全体にしだれ桜を植栽し、しだれ桜の里にしたらどうか」と町長へ提案したことをきっかけに事業が計画される。
- 平成28年度から山梨県富士川クラフトパークへ植栽を開始、平成29年度からは町内の各施設や自治会等にも声掛けをし、植栽を広げている。令和3年度末までに5,915本を植栽。
- 財源としてクラウドファンディングを活用し、桜の前に寄付者の氏名や企業名を入れたプレートを設置するほか、「里人の証」を配布。「里人の証」を利用することで、町内の施設を無料で利用できたり、割引特典を受けたりすることができる。

町の歌制作事業

- 平成29年8月21日に行われた町長と小学生の集い「町長を囲んで語り合おう2017」において、「みんなで歌える町の歌をつくってほしい」と提案があったことをきっかけに事業が計画される。
- 歌唱は「ゆるキャン△」のアニメのエンディングテーマの作詞作曲歌唱を手掛けた佐々木恵梨さんに依頼。町内各地の風景を収めたミュージックビデオも制作し、動画サイトで公開している。

ゆるキャン△による活性化の取組

- 「ゆるキャン△」は女子高生がゆるくアウトドア体験をする様子を描いた漫画。2018年にアニメ化、2020年にドラマ化された。作中にはJR身延駅や主人公らが通う高校のモデルとなった旧下部中など、身延町が多く描かれている。
- 「ゆるキャン△」をきっかけに地域の若者有志が中心となった「五条ヶ丘活性化推進協議会」が設立され、町内に案内看板を設置したり、キャンプイベントを開催したりするなどして、ファンを町内に呼び込んでいる。
- 町においてもイベントの開催に協力するほか、町が発行する「広報みのぶ」を通じて「ゆるキャン△」に登場する町のスポットや、イベントの様子を紹介している。

下部温泉の魅力アップに向けた取組

- 下部温泉は日本の名湯百選の1つに選ばれており、武田信玄が合戦で受けた傷を癒したと伝えられていることから「武田信玄公の隠し湯」といわれている。
- 古くから湯治場として名高く、下部温泉郷活性化に向けた取組として「新・湯治」を推進。
- 令和5年には下部温泉駅前に2種類の源泉を使用した健康増進施設をオープン予定。スポーツジムやカフェも併設する。整備運営はPFI事業を活用。



観光地としての魅力アップに向けて、町全体が一体となって取り組んでいる。



↑しだれ桜の里



↑「ゆるキャン△」校庭キャンプ（旧下部中にて）



↑「ゆるキャン△」のラッピングバス



↑下部温泉郷

出所：身延町提供